

平城宮

平城第399次調査 2006.3.4

朝集殿院の調査



中央区（北東から）

調査の概要 平城第399次調査は、朝集殿院における発掘調査です。朝集殿院は平城宮の東南部にあり、東の朝堂院の南に接していました。朝集殿院には中央に南北方向の道路があり、この道路は朝集殿院南門から朝堂院南門へと続いていました。そして、道路の東西には朝集殿が建っていました。調査範囲は朝集殿院中央部の北寄りにあたります。調査面積は約1,100㎡で、2006年1月6日から調査をはじめました。以下、西側のトレンチを「中央区」、東側のそれを「拡張区」と呼びます。

中央区の調査目的は、これまでの調査でみつかった南北道路の側溝や、「旗竿穴」の状況を明らかにすることにあります。調査の結果、次の知見が得られました。

まず、朝集殿院中央の南北道路の東側溝と、西側溝とを検出しました。両側溝の間隔は80尺（約24m）で、朝集殿院の中軸線を介して東西対称の位置にあります。

続いて、路面上で2条の道路側溝にはほぼ平行して並ぶ穴を検出しました。穴の間隔は一定しておらず、一部は重複して

います。同様の穴は、隣接する第265次・第370次調査や、第326次調査（朝集殿院南門付近）でもみつかっており、元日朝賀や外国使節を迎える儀式の際に立てられた旗竿の穴であると推定されます。

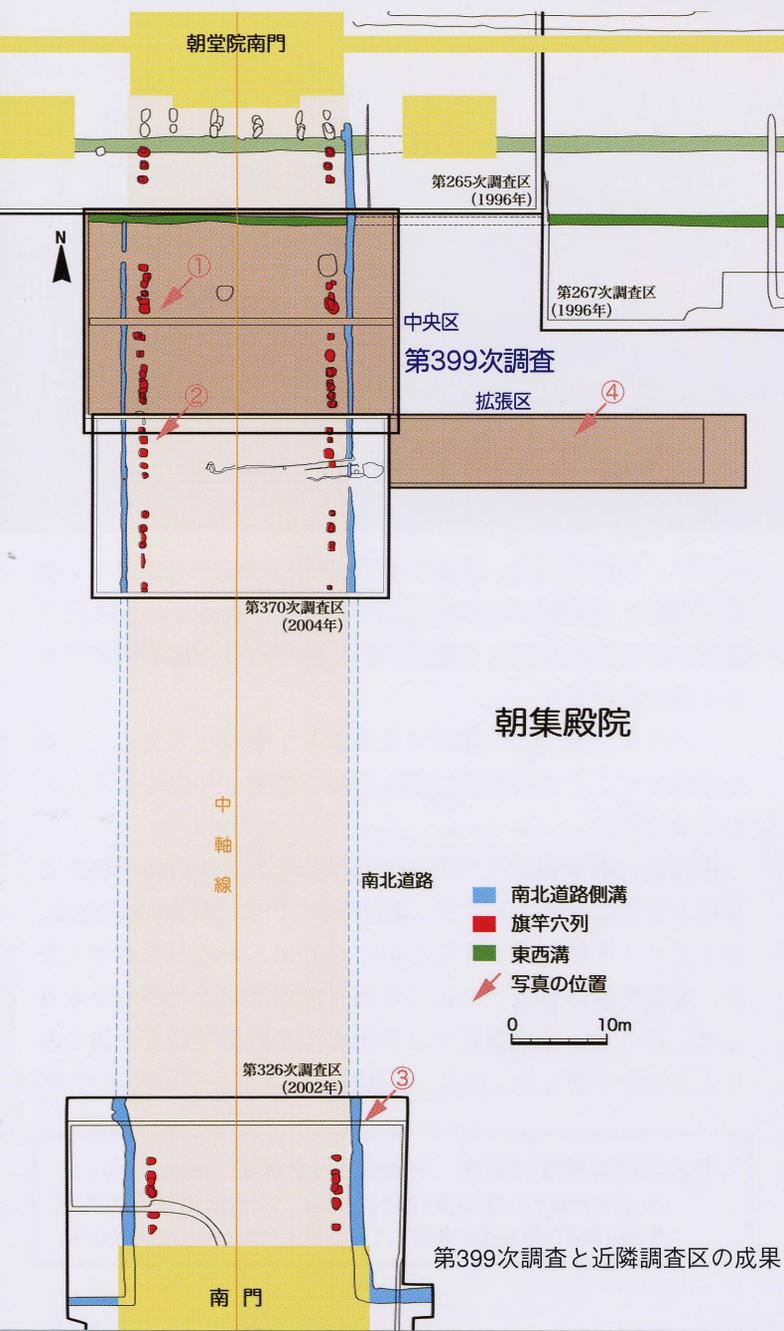
このほか、調査区北端部で東西溝を1条検出しました。重複関係から、この東西溝は南北道路の側溝より古いことがわかりました。

拡張区は昨秋実施した第394次調査地と、今回の中央区とを結ぶ東西に長いトレンチ（約290㎡）です。第394次調査は、主として下層朝集殿の存否を明らかにするためのものでしたが、東朝集殿の基壇下には下層朝集殿がないことがわかりました。そこで、今次調査では東朝集殿の西側で調査をおこなうことになりました。現在、鋭意調査を進めている段階です。

平城宮朝集殿院の調査 平城第399次調査 2006年3月4日
(独)文化財研究所奈良文化財研究所 平城宮跡発掘調査部
〒630-8577 奈良市二条町二丁目9-1 <http://www.nabunken.jp/>

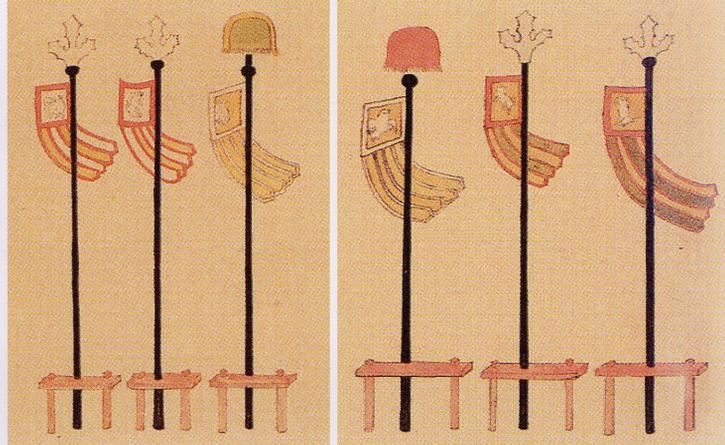


今回見つかった旗竿穴列



朝集殿院

第399次調査と近隣調査区の成果



「文安御即位調度之図」にみえる旗竿
神宮文庫編『即位の礼と大嘗祭—資料集—』(国書刊行会 1990)より



第370次調査の旗竿穴列



第326次調査の旗竿穴列

第399次拡張区

